

**平成27年度
新宿駅周辺防災対策協議会活動
報告書**

平成28年3月

新宿駅周辺防災対策協議会

平成27年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動 報告書

目次

第1章	はじめに	1
第2章	新宿駅周辺エリアの特徴と協議会活動の概要	2
2.1	新宿駅周辺エリアの特徴	2
2.2	新宿駅周辺防災対策協議会と活動の概要	3
第3章	教育訓練プログラムの概要	5
3.1	教育訓練プログラムの構成	5
3.2	新宿駅周辺防災対策協議会総会の概要	7
3.3	セミナーの概要	11
3.4	講習会の概要	21
3.5	新宿防災ウィークの概要	31
3.6	総合防災訓練の概要	32
第4章	おわりに	36

第1章 はじめに

超高層オフィスビルや大規模商業ビルが立ち並ぶ中心市街地は、多数の企業と事業所が集積し、大勢の勤労者や来街者が共存する環境にある。そのため、大規模地震災害時に企業や事業所単独の対応では不十分であり、入居する建物や立地するエリア内での事業所間、さらに行政や一般市民との密接な連携による災害対応が求められる。

新宿駅周辺防災対策協議会では、新宿駅周辺エリアにおける大規模地震災害時の対応能力を向上させるための体制づくりと教育訓練プログラムを新宿駅周辺地域都市再生安全確保計画¹⁾に位置づけて実践している。本報告書では、平成 27 年度に新宿駅周辺防災対策協議会が実施した総会、セミナー、講習会および総合防災訓練等の一連の活動について報告する。

第2章 新宿駅周辺エリアの特徴と協議会活動の概要

2.1 新宿駅周辺エリアの特徴

新宿駅周辺エリアの特徴について述べる。図1は新宿駅周辺エリアと災害時に拠点となる主要な施設の配置を表している。新宿区周辺エリアの大きな特徴は、夜間人口（約2万）に比べ、昼間人口（約30万）が圧倒的に多いことである。新宿駅には1日あたり約350万人の乗降客が利用する6事業者11路線の鉄道が接続し、大規模な4つの地下街（商店街）と地下歩行者通路が複雑にはりめぐらされている。

新宿駅の西口エリアと東口エリアでは地域特性が大きく異なる。西口エリアは高さ100m以上の超高層ビル約30棟を中心とするビジネス・住居地域であり、主要部は広域避難が不要な地区内残留地区である。一方、東口エリアは全国一の繁華街である歌舞伎町や新宿三丁目などの大規模な商業地域である。また、隣接する渋谷区内にある新宿駅の南口エリアも大規模な商業・ビジネス街区である。

災害時に拠点となる主要な施設として、西口エリアには東京都庁舎、災害拠点病院、西口現地本部（地域情報の集約拠点として災害時に工学院大学に設置される）などがある。新宿中央公園と超高層建物群の公開空地は地区内残留地区であり、新宿区だけでなく、隣接する中野区・渋谷区の一部住民の避難場所に指定されている。一方、東口エリアには新宿区役所（東口現地本部を兼ねる）、災害拠点病院、避難場所（新宿御苑）などがある。

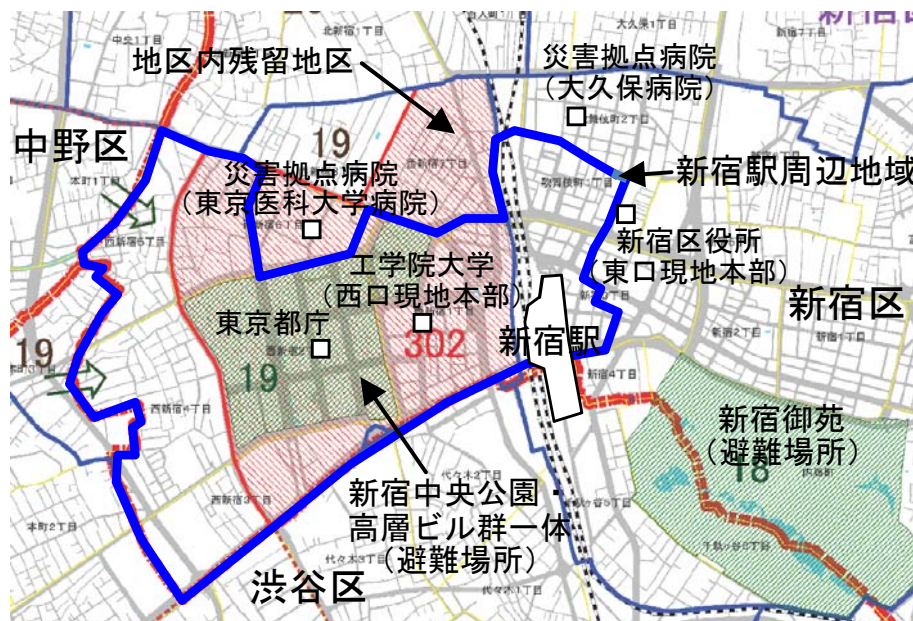


図1 新宿駅周辺地域の特性と震災関連の主要施設

2.2 新宿駅周辺防災対策協議会と活動の概要

新宿駅周辺エリアにおける事業者等が参加する新宿駅周辺防災対策協議会の活動の概要を紹介する。新宿駅周辺防災対策協議会は、新宿区に事務局を置き、新宿駅周辺の企業、商業・集客施設事業者、商店街、大学、鉄道交通機関、ライフライン機関、警察、消防および行政機関等により構成されている。本協議会では、新宿駅周辺エリアの各事業者や施設等における災害対応と地域連携の基盤となる「新宿モデル」（情報収集伝達、避難誘導支援、医療連携、建物安全確認のしくみづくり）の実現に向けて、災害対応計画の策定、マネジメント体制の構築および人材育成に取り組んでいる（図 2）。その具体的な取り組みとして、協議会は平成 24 年度より地域の事業所等の勤務者や災害対応従事者を対象とする災害対応の知識や経験を得るためのセミナーや実践的な技能を習得するための講習会、さらに身につけたものを活かした総合防災訓練で構成する教育訓練プログラムを計画し、実施している^{[2]~[30]}。こうした活動は、図 3 に示す協議会の年間活動の中で位置づけられ、図 4 に示す PDCA サイクルによって継続されている。

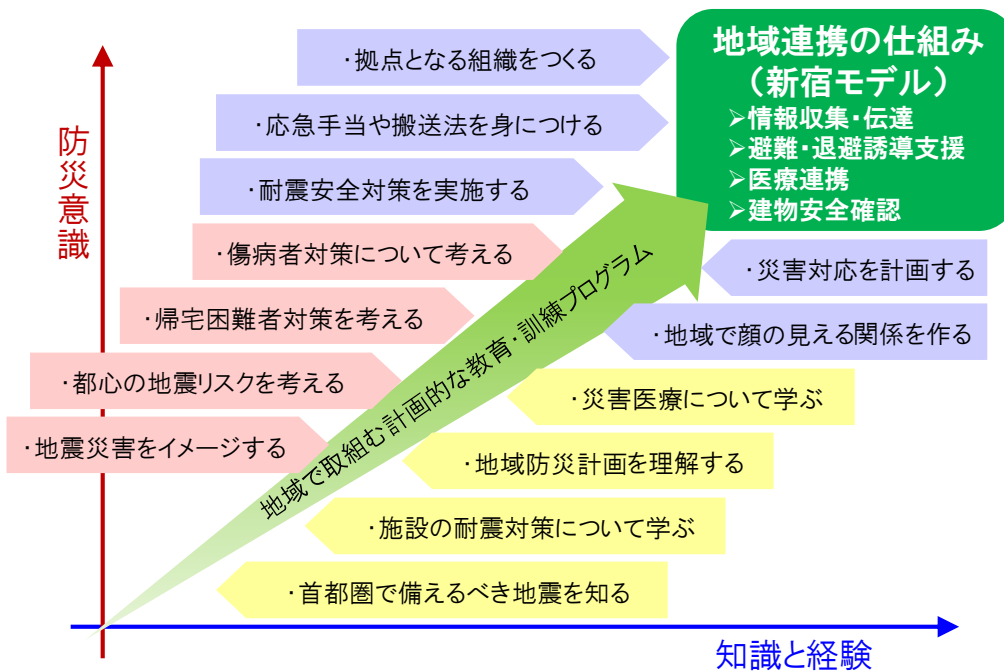


図 2 地域連携のしくみづくりのロードマップ

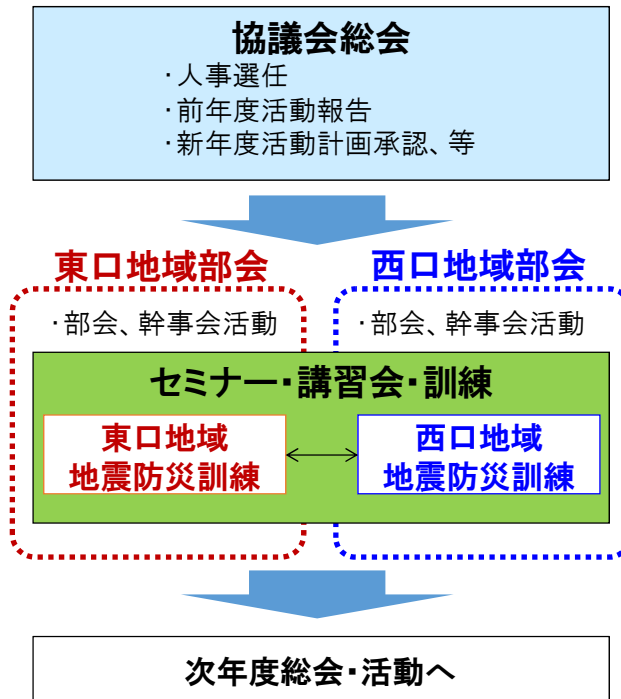


図 3 協議会の年間活動の流れ

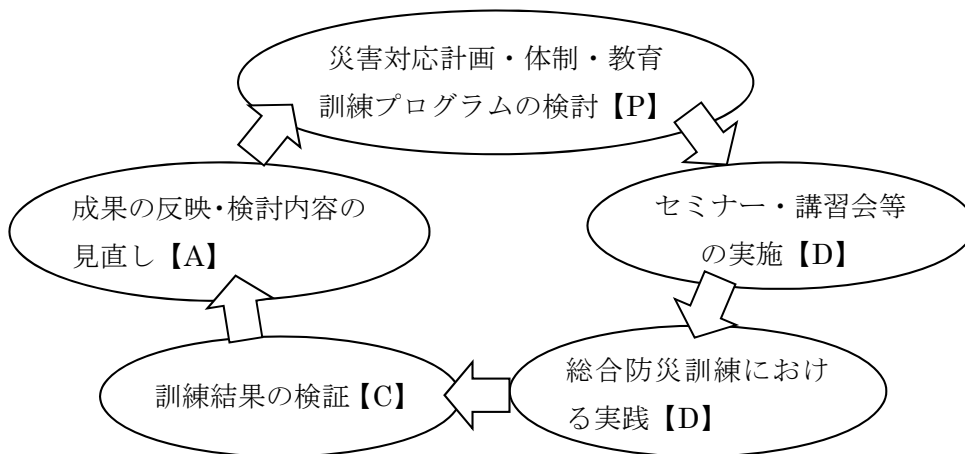


図 4 協議会の取組みを推進するPDCAサイクル

第3章 教育訓練プログラムの概要

3.1 教育訓練プログラムの構成

教育訓練プログラムは、図5に示すセミナー、講習会、訓練および防災関連イベントからなる4つの要素で構成され、個人、事業所から建物そして地域のそれぞれの単位で災害対応力の向上に資するものとしている。セミナーは、地域の事業所勤務者全般を対象に、災害への関心を高め、知識や知見を幅広く身につけることを目的とし、5つのテーマを選定し実施した。講習会については、新宿駅周辺地域の訓練に参加する事業所勤務者等を主な対象とし、超高層ビルにおける災害対応活動を実践するために必要な知識や技術を身につけ、総合訓練の効果を高めることを目的とし、5つの個別要素について実施した。そして訓練は、身につけた災害対応能力を活かし、事業所や地域で災害対応活動を総合的に実践できるようにする事を目的とし、新宿駅周辺の地域事業所と関係機関が参加する総合防災訓練として実施した。さらに、訓練を実施する1週間を「新宿防災ウィーク」とし、地域の事業所勤務者や一般市民を対象に、地震災害や防災対策への関心に繋がるイベントを開催した。

表1に平成27年度に実施された教育訓練プログラムを示す。2015年5月に開催された協議会総会における年間活動計画の方針決定を受け、7月より会員事業所等を対象とするセミナー、講習会を実施し、11月に東西エリアに分かれて総合防災訓練を実施した。12月には西口地域地震防災訓練の検証会において訓練の振り返りを行った。次節以降にセミナーおよび講習会の実施概要を示す。

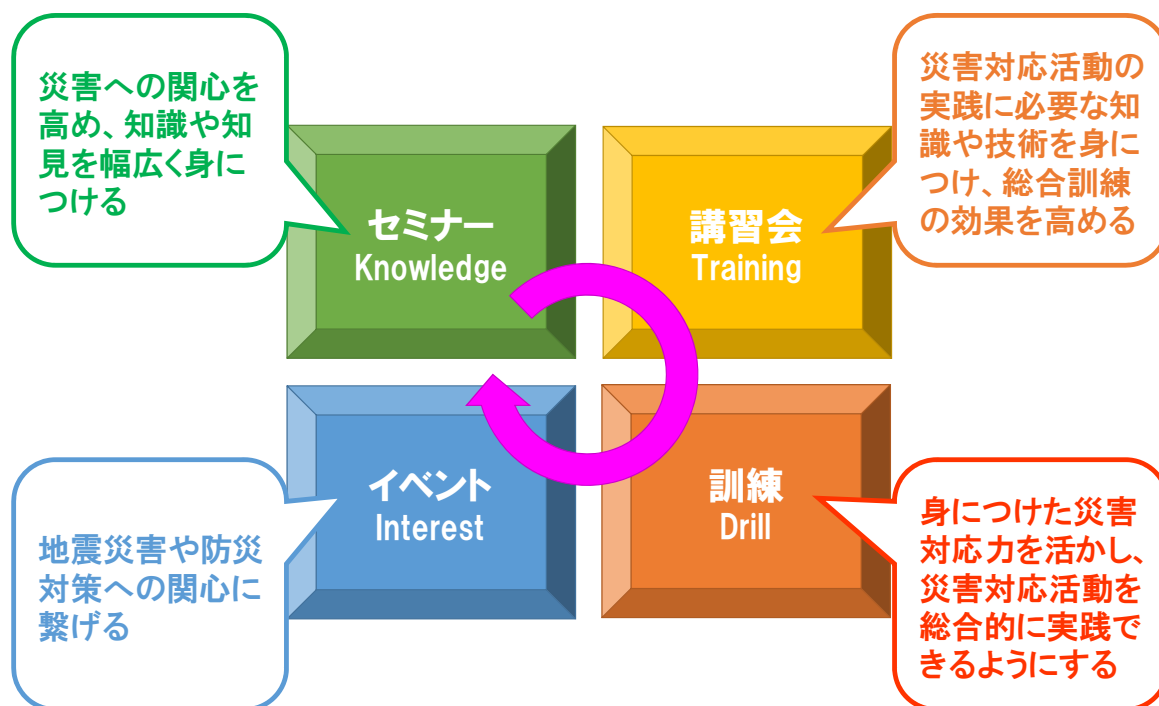


図5 教育訓練プログラムの構成

表 1 平成27年度の教育訓練プログラム

日付	項目	題目	目的	参加人数
2015 7/2 8/6	第1回 セミナー	大規模地震の発生時にわたしたちは何ができるのか？	震災時の対応事例と建物の即時使用性判定の解説から地震災害時に必要な対応を学ぶ	180
9/16	第2回 セミナー	大規模地震の発生後に新宿駅周辺地域では何が起こるのか？	建物の地震被害・対策や阪神淡路大震災・東日本大震災の火災事例を通じて震災で想定される被害と対策を学ぶ	102
9/30	講習会	西口現地本部運営シミュレーション訓練	西口現地本部の役割と運営手順をロールプレイング方式の図上訓練で学ぶ	23
10/1	講習会	災害医療研修会※1	一次トリアージ(START 式)について学ぶ、二次トリアージを体験する、医療救護所の立ち上げと運営について理解を深める	31
10/8	講習会	建物被害対応の実践トレーニング	超高層テナントビルを想定した地震災害時の初動対応における建物調査の一連の流れを演習形式で体験する、建築専門家でなくても行える建物調査の仕方を理解する	34
10/14	第3回 セミナー	大規模地震発生後の新宿駅周辺地域の状況をイメージしよう！！	DIG を通じて大規模地震発生後の新宿駅周辺地域の状況をイメージする	38
10/15	講習会	応急救護講習会	地震災害時の応急救護に必要な知識と技能の習得および実践的なトレーニング	28
10/29	講習会	自衛消防活動講習会	地震災害時における自衛消防活動の一連の流れ、本部隊・地区隊の役割および超高層テナントビルを例とする具体的な活動要領を学ぶ	12
11/2 ～ 11/5	イベント	新宿防災ウィーク	地震災害や防災対策への関心を高める	
11/5	訓練	新宿駅西口地域地震防災訓練	セミナー・講習会で身につけた災害対応能力を活かし、事業所や地域で災害対応活動を総合的に実践できるようにする	※2 123
12/9	第4回 セミナー	帰宅困難者を受入れるとどうなるの??	帰宅困難者支援施設運営ゲームを通じて災害時の帰宅困難者受入体制を学ぶ	31
12/24	訓練 検証会	新宿駅西口地域地震防災訓練検証会	地震防災訓練の実施内容を振り返り、その成果と課題を検証する	36
2016 2/17	第5回 セミナー	応急手当が出来るヒトを増やそう！	赤十字 WEB CROSS(電子講習室)を活用して自宅や職場で応急手当ができる人を増やす	30

新宿駅周辺地域都市再生緊急整備協議会との共催

※1 新宿区医師会共催

※2 運営参加者を除く訓練参加人数

3.2 新宿駅周辺防災対策協議会総会の概要

平成 27 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会において、当該年度の協議会活動に係る議題の審議、平成 26 年度の協議会活動報告および平成 27 年度の活動計画案等に関する報告がなされ、その後には講演が行われた。以下に実施概要、総会プログラム（図 6）および実施状況（図 7）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 2、表 3、図 8～図 10 に示す。

- ・ 名称：平成 27 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会
- ・ 日時：2015 年 5 月 20 日（水）13:00～15:15
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 3 階アーバンテックホール
- ・ 参加人数：88 名
- ・ 議事概要

(1) 開会挨拶（吉住健一 新宿区長）

(2) 総会

議長として選任された松田浩一氏（新宿区区長室危機管理課長）の議事進行により、以下の議題について審議がなされた。

- ・ 議題 1 平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 座長の選任について
宮崎明浩氏（日本赤十字社東京都支部事業部長）を選任することで承認された。
- ・ 議題 2 平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 副座長の選任について
東口地域部会長の田中真人氏（東京都赤十字血液センター新宿東口出張所長）および西口地域部会長の久田嘉章氏（工学院大学教授）の両名を選任することで承認された。
- ・ 議題 3 平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 構成団体名簿（案）について
配布された構成団体名簿案が承認された。
- ・ 議題 4 平成 26 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 活動報告
田中真人氏（前掲）より平成 26 年度の活動全体について、長谷川哲也氏（新宿区区長室危機管理課）より東口地域の活動について、久田嘉章氏（前掲）より西口地域の活動について、それぞれ報告がなされた。
- ・ 議題 5 平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 活動計画（案）について
鱒沢曜氏（鱒沢工学研究所代表）より平成 27 年度の活動方針案が示され承認された。
- ・ 議題 6 その他報告事項
村上正浩氏（工学院大学准教授）より都市再生安全確保計画の現状報告等がなされた。

(3) 講演「損保ジャパン日本興亜 本社ビルの地震災害対応」

林田健氏（損保ジャパン日本興亜ビルマネジメント株式会社 執行役員 技術支援部長）による講演が行われた。

(4) 質疑応答

講演内容に関する質疑応答が行われた。

(5) 閉会挨拶（宮崎明浩 新宿駅周辺防災対策協議会座長）

平成27年度 新宿駅周辺防災対策協議会 総会

平成27年5月20日（水） 工学院大学新宿キャンパス3階アーバンテックホール

プログラム

開 場	12:30	
開 会	13:00	
開会挨拶	13:00	新宿区長 吉住 健一
	13:10	(1) 平成27年度 新宿駅周辺防災対策協議会 座長の選任について
		(2) 平成27年度 新宿駅周辺防災対策協議会 副座長の選任について
		(3) 平成27年度 新宿駅周辺防災対策協議会 構成団体名簿(案)について
	13:20	(4) 平成26年度 新宿駅周辺防災対策協議会 活動報告 東京都赤十字血液センター新宿東口出張所長 田中 真人 新宿区区长室危機管理課 長谷川 哲也 西口地域部会長(工学院大学建築学部 教授) 久田 嘉章
総 会		
	14:00	(5) 平成27年度 新宿駅周辺防災対策協議会 活動計画(案)について 鱒沢工学研究所代表
	14:15	(6) その他報告事項 工学院大学建築学部准教授 村上 正浩
講 演	14:30	「損保ジャパン日本興亜 本社ビルの地震災害対応」 損保ジャパン日本興亜ビルマネジメント株式会社 執行役員 技術支援部長 林田 健
質疑応答	15:00	
閉会挨拶	15:05	新宿駅周辺防災対策協議会 座長

図 6 平成27年度新宿駅周辺防災対策協議会総会プログラム



図 7 平成27年度新宿駅周辺防災対策協議会総会の実施状況
 (左上：吉住区長の挨拶、右上：会場の様子、左下：林田氏の講演、右下：宮崎座長の挨拶)

表 2 総会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
88名	50名	57%

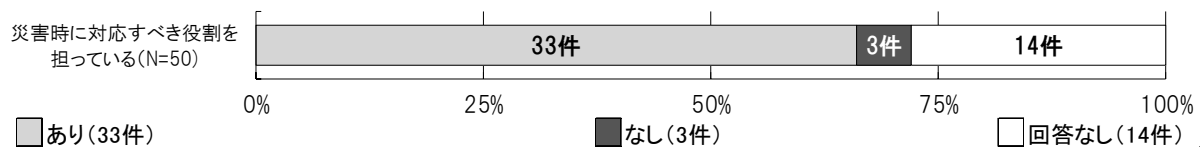


図 8 総会アンケート調査結果概要(1) (回答者の属性)

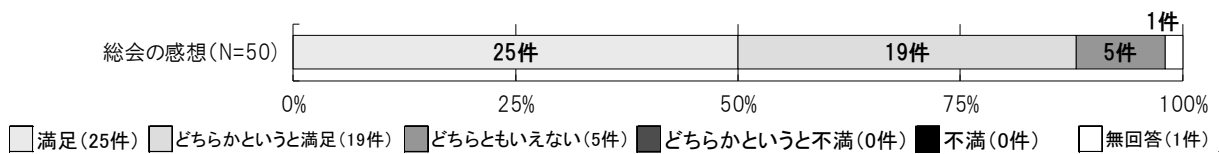


図 9 総会アンケート調査結果概要(2) (総会の感想)

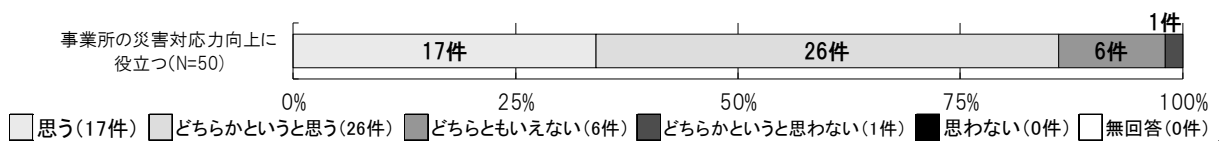


図 10 総会アンケート調査結果概要(3) (事業所の災害対応力向上に役立つ情報が得られたか)

表 3 総会アンケート調査結果概要(4) (総会についての意見)

<p>良かった点</p> <p>【会場】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 総会会場が大きくスクリーンが見やすかった <p>【年間予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 年度スケジュールが明確で参考になった。セミナー内容も都心に沿ったテーマになっている • 協議会活動スケジュールが提示され、予定が立てやすくなった <p>【進行】</p> <ul style="list-style-type: none"> • スケジュール通りの進行。手元資料が用意されていたこと • スムーズな運営、進行はよかった • 時間短縮が図られていた。説明の内容もよくまとまっていた • 時間配分が良かった • バランスが取れていると思います <p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 具体的な内容でよかった。今後の方向性が明確でよかった • 説明が具体的で分かり易かった • 具体的に取り組みの概要、ポイントが理解できました • 昨年度の取り組み実績と本年度の取り組み計画が分かり易かった • 資料、説明とも分かり易くかつ充実した内容でまとめられています • 協議会の活動内容が良く理解できた。他社の地震災害対応について詳細がわかったのが良い • 実績を重ねていることがデータとして有益な形となっていることが実感できた <p>【講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通常では聞けない他者ビルの状況を確認できたこと • 講演会の内容で高層ビルでの防火対策が進んでいるかよくわかりました • 講演、建物判定 • 損保ジャパンの防災対策は参考になった • 損保ジャパンの講演は大変参考になった • 損保ジャパン興亜の報告 • 興味深い講演を聞くことができた • 講演（損保ジャパン日本興亜様） • 講演内容が具体的 <p>改善点</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 活動報告は短く、活動方針を詳しく • 昨年度実績はこの会に参加（体験）している人が多いと思うので、もう少しコンパクトにすると総会の時間を短縮できる • 報告者は行政ではなく、事業者に • 既存の法令に基づく計画との整合性について（訓練時の統括管理者） <p>【時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 休憩がある方がよいのでは？ • 一般的に昼休みの時間帯である12時から13時以外の設定にしてほしい。（受付開始時間） • 会場までに要する時間がお昼時なのでもう少し遅めに時間設定をしてほしい <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> • レジュメの見にくい文字（小さい）を大きく鮮明にしてほしい

3.3 セミナーの概要

3.3.1 第1回セミナー

阪神淡路大震災における企業の現地災害対策本部責任者としての経験談および建物の即時使用性判定の考え方に関する講演が行われた。以下に実施概要および実施状況(図11)を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表4、表5、図12～図14に示す。

- ・ 題目：大規模地震の発生時にわたしたちは何ができるのか？
～阪神淡路大震災被災者に学ぶ&一般の人々による建物安全確認～
- ・ 目的：震災時の対応事例と建物の即時使用性判定の解説から地震災害時に必要な対応を学ぶ
- ・ 日時：2015年7月2日(木) 15:30～17:30、2015年8月6日(木) 15:30～17:30
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟7階A0762教室(7月2日)
工学院大学新宿キャンパス 3階アーバンテックホール(8月6日)
- ・ 参加人数：180名(7月2日：103名、8月6日：77名)
- ・ プログラム
講演①「その時何が！-現地災害対策本部のトップとして大震災を語る-」
元 東京海上火災保険(株) 取締役神戸支店長
元 東京海上リスクコンサルティング(株) 社長
瀬尾 征男 氏
元 損害保険ジャパン日本興亜(株)(現称) 兵庫本部 総務課長
損保OB・OGの防災を考える有志の会(仮称)事務局
児島 正 氏(趣旨説明)
講演②「大地震・この建物にとどまれるのか?!建物の即時使用性判定の方法と考え方」
工学院大学建築学部まちづくり学科 教授 宮村 正光 氏

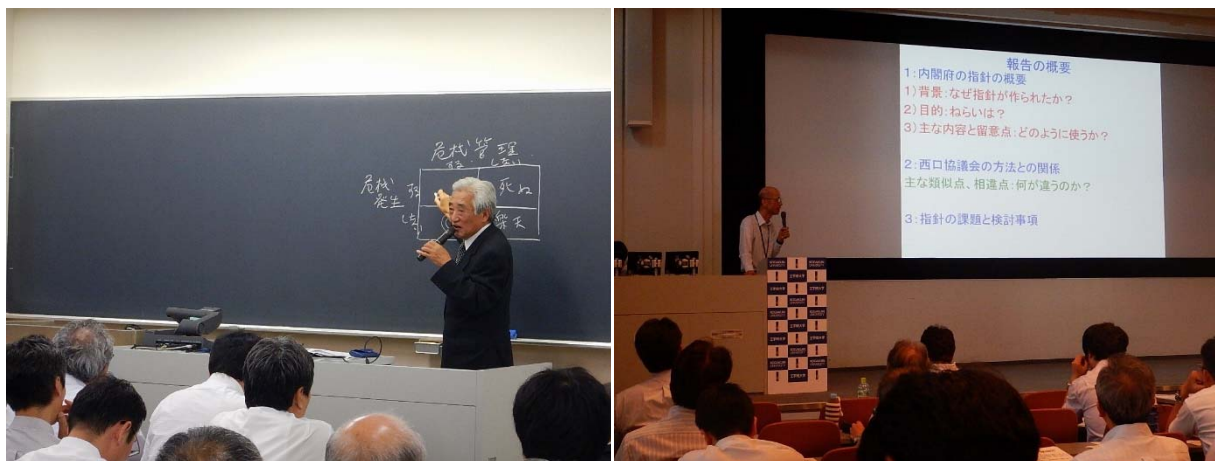


図11 第1回セミナーの実施状況(左:7月2日、右:8月6日)

表 4 第1回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
180名	110名	61%

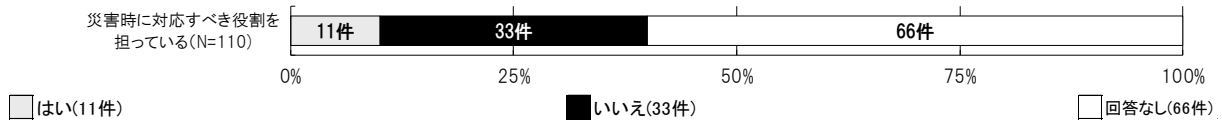


図 12 第1回セミナーアンケート調査結果概要(1) (回答者の属性)

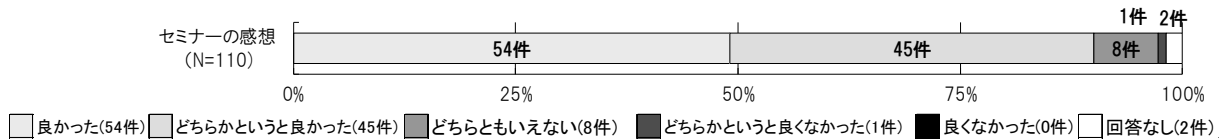


図 13 第1回セミナーアンケート調査結果概要(2) (セミナーの感想)

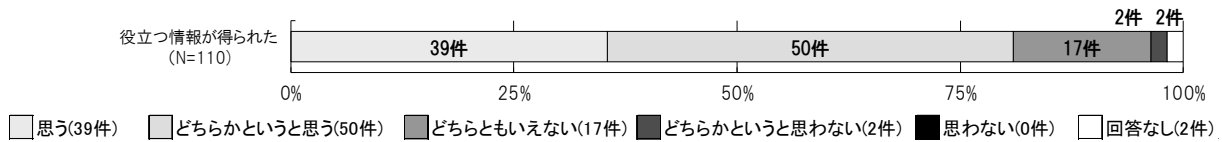


図 14 第1回セミナーアンケート調査結果概要(3) (組織の防災対策に役立つか)

表 5 第1回セミナーアンケート調査結果概要(4) (セミナーに参加して認識を新たにした事)

- 戦前の教訓をもっと広めていきたい。戦後に育った私にもしっくり来た。
- ある程度予測ができた内容だったが、より詳細な情報が得られた。
- 建物の事前カルテ・チェックシートの作成。
- 事前カルテ作成の重要性が良くわかった。
- 判定の目安について考える機会を得た。
- 内閣府の指針が具体的に震災時に役立つのか不明で、やはり自分の身は自分で守らなければならないことが良くわかった。
- 突き詰めていくと、「まずは人の命」というシンプルかつ難しい課題。
- 震災時に組織として何をすべきか、必要なものは何かを考えなければならない。
- 個人でも生き残る術を身につける必要がある。
- まず、生き延びることが第一。生活の不自由は当たり前なので、最低限の食・住が確保できればいいかと考えている。
- 心身が健康であることが一番重要であると認識できた。
- 災害(時期・時間によって違う)が起きたら、まず自分の身は自分で守る。その後は周り、次は公。
- 普段からの備えや訓練。想定外のことも考える。連携・正確な情報・一元化。
- 災害が発生した時のマスト事項、役割分担をしっかりとっておこうと思った。
- 周りの人々との連携が大切だと再認識した。
- 自分では何ができるか、何をしなければならないか、平素から考えておく必要がある。
- 現場判断の難しさ。日頃からの備え、トレーニングの必要性(講演2題に共通して)。
- 小さな職場ではあるがトップとしてどう行動すべきか。
- 情報収集と共有化が大事ということは理解できた。ただ、実際の災害時にどう行動するか、勸、リーダーは誰かなど、難しい課題の認識もできた。
- 1995年阪神はメディア、2011年東日本はインターネット、次の20年後は何が有効なものとして使われているのか?→人口減少、高齢化により、また違う通信手段もあるか、考えていきたい。

3.3.2 第2回セミナー

大地震時の建物の地震被害や阪神淡路大震災・東日本大震災での地震火災の被害・発生状況などについて講演を行った。以下に実施概要および実施状況（図15）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表6、表7、図16～図18に示す。

- ・ 題目：大規模地震の発生後に新宿駅周辺地域では何が起こるのか？
～地震火災の発生&ビルの揺れによる影響～
- ・ 目的：建物の地震被害・対策や阪神淡路大震災・東日本大震災の火災事例を通じて震災で想定される被害と対策を学ぶ
- ・ 日時：2015年9月16日（木）15:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階第1・第2会議室
- ・ 参加人数：102名
- ・ プログラム
講演①「地震により建物はどう揺れるのか？-建築物の地震被害と対策-」
工学院大学建築学部まちづくり学科 教授 久田 嘉章 氏
講演②「大規模地震で同時多発火災が発生したら！-地震火災リスクとその対策-」
東京理科大学大学院 国際火災科学研究科 教授 関澤 愛 氏



図15 第2回セミナーの実施状況

表 6 第2回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
102名	67名	66%

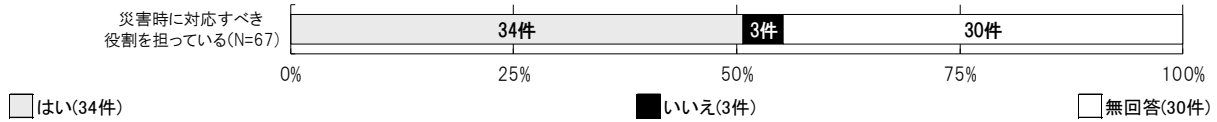


図 16 第2回セミナーアンケート調査結果概要(1) (回答者の属性)

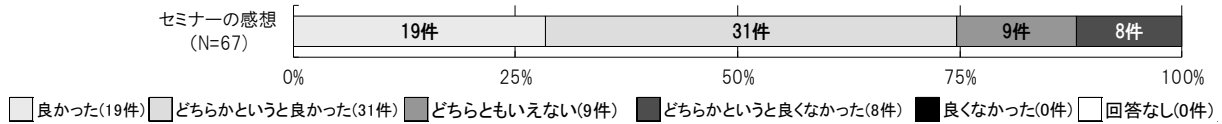


図 17 第2回セミナーアンケート調査結果概要(2) (セミナーの感想)

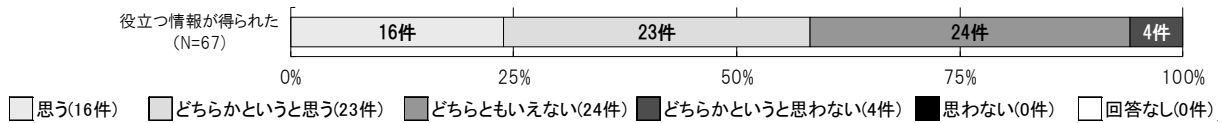


図 18 第2回セミナーアンケート調査結果概要(3) (組織の防災対策に役立つか)

表 7 第2回セミナーアンケート調査結果概要(4) (セミナーに参加して認識を新たにした点)

- 感震ブレーカーの重要性。
- 初期消火がとても重要だと改めて感じたが、その消火をする上でのポイントや現在首都圏でどれぐらいのビル・建物・マンションが耐震強化されているのか、データがあれば見たかった。
- 帰宅困難者対策にスポットがあたる内容かと思っていたが、地震火災について考える機会にはなかった。
- 地震に伴う耐震対策の経過が良くわかった。東日本大震災に伴う火災事例が分かりやすかった。プロパンガス漏れが火災に関連している可能性が興味深い。
- 津波火災の火種はLPGが要因らしいが、電気も火種として考えられないか？
- 地震による火種とその出火対策の問題意識を持った。
- 地震ばかりに注目していましたが、火災の発生、消火をそれほど問題視していなかった。自衛消防の重要性を再確認できました。
- 複数火災が起きた時の地域での協力。
- 地震火災時の消防体制など。
- ビルの地震火災時に全館避難させるべきか否か、判断は難しいと感じた。
- 火災を出さないように心がける。
- 全館避難方法や帰宅方法は考えていないので、もっと真剣に考えようと思った。
- 対応すべき事項が再認識させられた。
- 耐火建築物、高層建築物、地下街、木造密集地域等、その地域、事業所のそれぞれの対応、および近隣事業所、町会等が連携して対策を推進していくべきである。
- 長周期地震動に対する予防措置を更に進めていきたいと思えます (当ビルは34階建てのため)。
- 耐震対策の見直し。
- ビルから逃げた場合の滞留問題があることを新たに認識した。
- 順次避難→フェーズ分けの課題を持ち帰って検証しようと思いました。
- 大規模地震レベルの把握。
- 街区、都市計画への避難の問題。
- 久田先生の内容は、ビルだけでなく、一般住宅についても参考になった。
- 関澤先生の講演は2回目であるが、具体的なデータを基に説得力があり、今後の問題点が提示され、良かった。
- ビル内での全館避難問題は重要。当社でもしっかり検討を重ねたい。感震ブレーカーの普及は必要だと思う。大きなリスクがあるわけで、都としてももっと普及推進の働きかけをしてほしい。
- 「民」または民間企業ができることは「災害対策」であって「防災」や「防災対策」ではありません。民間企業ができることは訓練の繰り返しであると思えます。「防災」に対して「官」が何をやっている、やろうとしているか知りたいです。

3.3.3 第3回セミナー

地図を使った防災ワークショップ（DIG）を通じて大規模地震発生後の新宿駅周辺地域の状況をイメージする演習を行った。以下に実施概要および実施状況（図19）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表8、図20～図23に示す。

- ・ 題目：大規模地震発生後の新宿駅周辺地域の状況をイメージしよう！！
- ・ 目的：DIGを通じて大規模地震発生後の新宿駅周辺地域の状況をイメージする
- ・ 日時：2015年10月14日（木）14:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階第1・第2会議室
- ・ 参加人数：38名
- ・ プログラム

演習「地図をつかった防災ワークショップ～大地震時の新宿をイメージしてみる～」

減災アトリエ 主宰 鈴木 光 氏



図19 第3回セミナーの実施状況

表 8 第3回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
38名	23名	65%

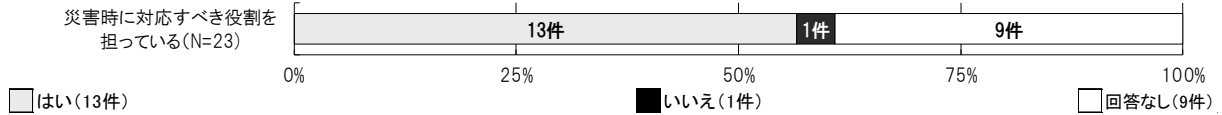


図 20 第3回セミナーアンケート調査結果概要(1) (回答者の属性)

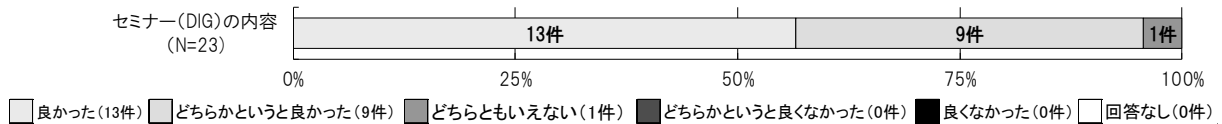


図 21 第3回セミナーアンケート調査結果概要(2) (セミナーの感想)

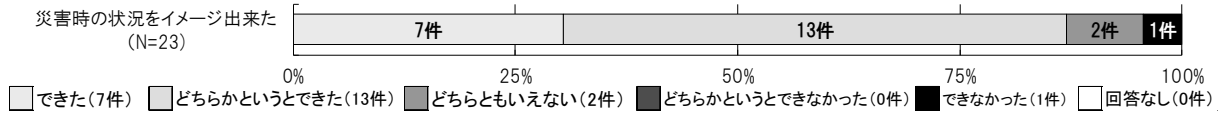


図 22 第3回セミナーアンケート調査結果概要(3) (災害時の状況をイメージできた)

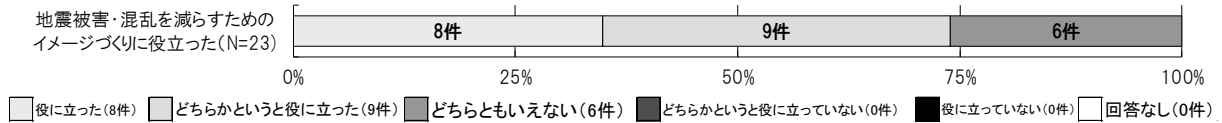


図 23 第3回セミナーアンケート調査結果概要(4)
(地震被害・混乱減少のイメージづくりに役立つか)

3.3.4 第4回セミナー

帰宅困難者を対象にした一時滞在施設の確保をテーマとする講演および帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）を行った。以下に実施概要および実施状況（図24）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表9、表10、図25～図27に示す。

- ・ 題目：帰宅困難者を受入れるとどうなるの??
- ・ 目的：帰宅困難者支援施設運営ゲームを通じて災害時の帰宅困難者受入体制を学ぶ
- ・ 日時：2015年12月9日（水）14:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階第1・第2会議室
- ・ 参加人数：31名
- ・ プログラム

演習「帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）」

名古屋大学減災連携研究センター 准教授 廣井 悠 氏



図24 第4回セミナーの実施状況

表 9 第4回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
31名	28名	90%



図 25 第4回セミナーアンケート調査結果概要(1) (回答者の属性)

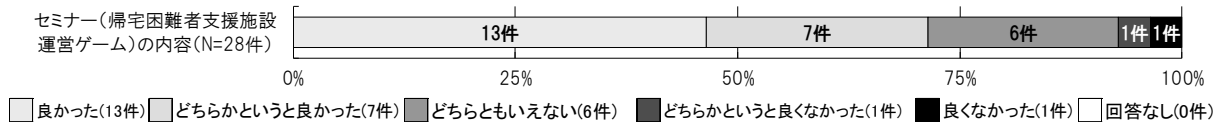


図 26 第4回セミナーアンケート調査結果概要(2) (セミナーの感想)



図 27 第4回セミナーアンケート調査結果概要(3) (帰宅困難者対応のイメージづくりに役立つか)

表 10 第4回セミナーアンケート調査結果概要(4) (セミナーに参加して認識を新たにした点)

- 訓練を机上でもすることで、新しい情報を得ることができた。
- 帰宅困難者の受入れは、性別、年齢、健常者か否か等の条件があるので、全ての受入れは難しいと思うので、その選別が難しいと思う。
- 受入れに際してのルール作りが大切なことを認識させられた。
- 一旦入れた帰宅困難者を移動や退館の困難さを感じた。
- 帰宅困難者を受入れないと都市部の混乱が大きいということが、シミュレーションで具体的にイメージできたことが良かったです。
- 一時受入れは3日間と思い込んでいた。時間差帰宅を認識できた。
- 運営ゲームは短時間で受入れ方法等を決めるため、いろいろな意識があり簡単にはできないことが認識できた。帰宅困難者受入れ施設は施設毎のマニュアルを作成するなりして対応しなくてはいけないことを再度確認できた。
- 帰宅困難者の受入れの難しさを改めて感じた。
- 事業所の帰宅困難対策に一部役立たせていただきたい。
- 事前対策の必要性を再確認した。
- あらかじめ、帰宅困難者の属性毎に受入れスペースを検討しておかなければならないと感じた。
- 帰宅困難者の受入れを決定した時点で、誰を、どのようなグループを受入れる(受入れない)グループ分けが非常に重要だと感じた。
- 限られた人員で、緊迫した状況で対応ができるのか、難しさを強く感じた。
- ゲームを通じて考えることが多く、他事業者の方々からいろいろな意見をお伺いしました。
- 受入れ態勢について色々参考になった。

3.3.5 第5回セミナー

自宅や職場で応急手当ができる人を増やすことをテーマに、赤十字 WEB CROSS（電子講習室）を活用した応急手当の演習を行った。以下に実施概要および実施状況（図 28）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 11、表 12、図 29～図 31 に示す。

- ・ 題目：応急手当が出来るヒトを増やそう!!
- ・ 目的：赤十字 WEB CROSS（電子講習室）を活用して自宅や職場で応急手当ができる人を増やす
- ・ 日時：2016年2月17日（水）14:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 中層棟6階 B0663 教室
- ・ 参加人数：30名
- ・ プログラム

演習「日本赤十字社 WEB CROSS の活用方法とその実践」

日本赤十字社東京都支部 事業部長／新宿駅周辺防災対策協議会 座長 宮崎 明浩 氏

日本赤十字社東京都支部 救護課 講習係長 野口 陽平 氏

日本赤十字社東京都支部 救護課 高橋 郁弥 氏



図 28 第5回セミナーの実施状況

表 11 第5回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
30名	26名	87%

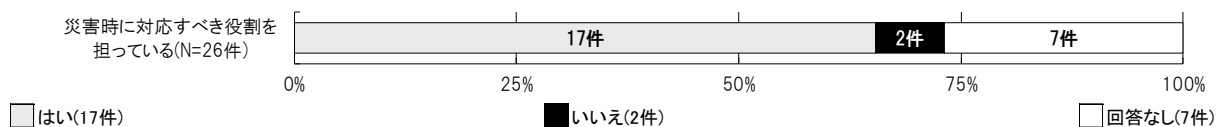


図 29 第5回セミナーアンケート調査結果概要(1) (回答者の属性)

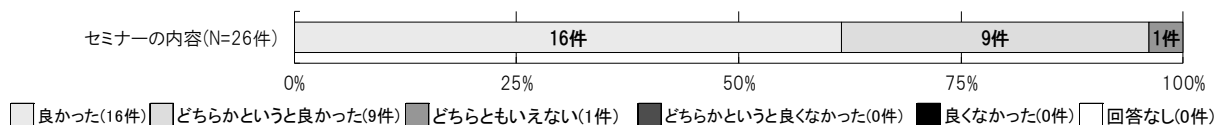


図 30 第5回セミナーアンケート調査結果概要(2) (セミナーの感想)

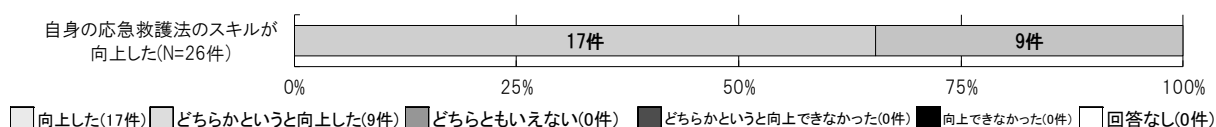


図 31 第5回セミナーアンケート調査結果概要(3) (自身の応急救護法のスキルが向上した)

表 12 第5回セミナーアンケート調査結果概要(4) (セミナーに参加して認識を新たにした点)

- ほとんど知らない事だったので全部。
- 怪我をしていない方に結び目を作る等、理由がある事がわかった。
- 色々な物を活用して応急救護ができる事がわかった。
- 三角巾は色々使えるので、広めたい。
- 毛布のコート、ホットタオル、足浴など実際に役立つ知識をおしえていただいたのでぜひ職場で展開していきたい。
- ポイントを押さえていけば身近なもので代用できる事が分かった。
- 身近なもの(ビニール)を利用する発想をもつという事を学びました。
- 動画の活用が新しく良い。
- 自分も含め、まだまだ応急救護の認知、知識が普及していないと感じた。企業でも機会があれば従業員等に普及させる必要があると思う。
- 毛布の活用方法。
- 救護の講習は以前受講した事があり、今回は忘れていた部分を思い出すつもりで参加させていただきました。基本的な三角巾の他に毛布の使い方やホットタオル、足湯の事など新たな知識が増えました。
- 身近なもので救護ができました。
- 大切なのは手段ではなく目的。
- 身近なものでもできる事がたくさんあるという事。
- 上級救命技能認定証を取得していますが、忘れていた事もあり、正しい知識を身に着ける事ができました。当社ビルに入居されているテナントの皆様にも是非参加してほしいと感じました。

3.4 講習会の概要

3.4.1 西口現地本部運営シミュレーション訓練

西口現地本部の役割と運営手順を学ぶことを目的にロールプレイング方式の図上訓練を行った。以下に実施概要および実施状況（図 32）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 13、図 33～図 37 に示す。

- ・ 題目：西口現地本部運営シミュレーション訓練
- ・ 目的：西口現地本部の役割と運営手順をロールプレイング方式の図上訓練で学ぶ
- ・ 日時：2015年9月30日（水）13:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・ 講師：減災アトリエ主宰 総務省消防庁防災図上訓練指導員 鈴木 光 氏
- ・ 参加人数：23名
- ・ プログラム
 - 1) 訓練の目的、予定
 - 2) 訓練方法・ルール、前提、役割分担
 - 3) 訓練
 - 4) 振り返り



図 32 西口現地本部運営シミュレーション訓練の実施状況

表 13 西口現地本部運営シミュレーション訓練アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
23名	20名	87%

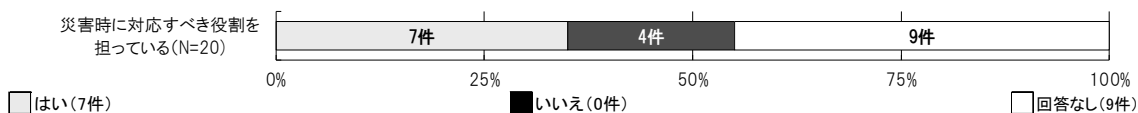


図 33 西口現地本部運営シミュレーション訓練アンケート調査結果概要(1) (回答者の属性)



図 34 西口現地本部運営シミュレーション訓練アンケート調査結果概要(2) (訓練の内容)

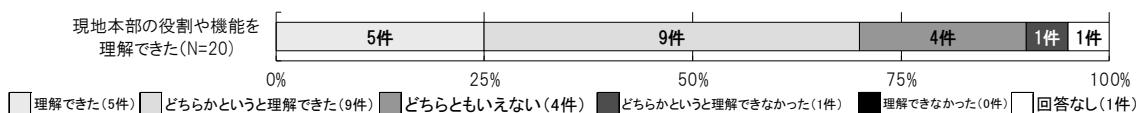


図 35 西口現地本部運営シミュレーション訓練アンケート調査結果概要(3) (現地本部の役割や機能の理解)



図 36 西口現地本部運営シミュレーション訓練アンケート調査結果概要(4) (災害対応のイメージづくりに役立ったか)

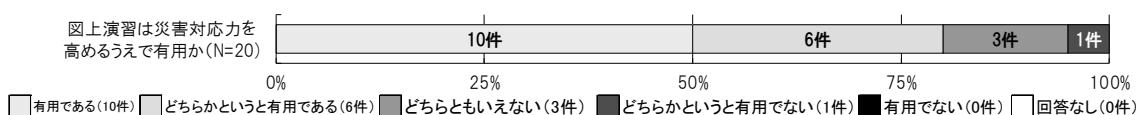


図 37 西口現地本部運営シミュレーション訓練アンケート調査結果概要(5) (災害対応力を高めるうえで有用か)

3.4.2 災害医療研修会

地域の医療従事者向けに、救急専門医による災害医療に関する講演および救急医療に携わる医師、看護師および救急救命士による実技研修を行った。協議会の一般参加者は見学または実技研修に模擬傷病者として参加し、災害医療におけるトリアージを体験した。以下に実施概要および実施状況（図 38）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 14、表 15、図 39～図 41 に示す。

- ・ 題目：災害医療研修会
- ・ 目的：
 - ・ 一次トリアージ（START 式）ができる
 - ・ 二次トリアージを体験する
 - ・ 医療救護所の立ち上げと運営について理解を深める
- ・ 日時：2015 年 10 月 1 日（木）19:30～21:10
- ・ 会場：新宿区立教育センター5 階大研修室
- ・ 主催：新宿区医師会、新宿駅周辺防災対策協議会
- ・ 講師：東京医科大学 救急・災害医学分野 兼任教授 太田 祥一 氏
東京女子医科大学病院 救命救急センター講師 武田 宗和 氏
国立国際医療研究センター救急科 佐々木 亮 氏
東京医科大学 救急・災害医学分野 内田 康太郎 氏
- ・ 指導：東京医科大学病院 石上雄太医師、看護師、救急救命士
国立国際医療研究センター病院 看護師、救急救命士
- ・ 参加人数：31 名（医師会参加者 54 名）
- ・ プログラム
 - 1) 講義 東京都の災害医療体制と新宿区医師会の役割
 - 2) 演習
 - ①医療救護所の立ち上げと運営について
 - ②一次トリアージの実際
 - ③二次トリアージのいろは
 - 3) 講評



図 38 災害医療研修会の実施状況

表 14 災害医療研修会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
31名	24名	77%

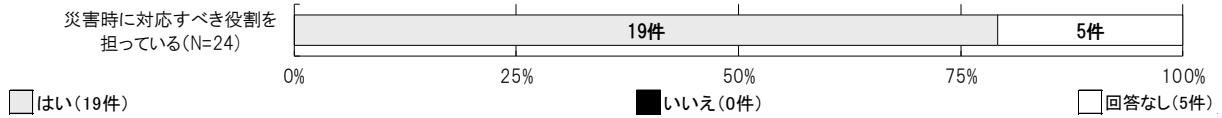


図 39 災害医療研修会アンケート調査結果概要(1) (勤め先の属性)

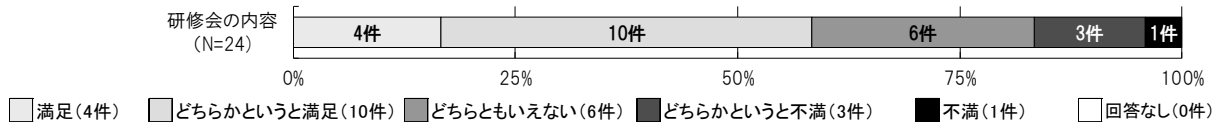


図 40 災害医療研修会アンケート調査結果概要(2) (研修会の感想)

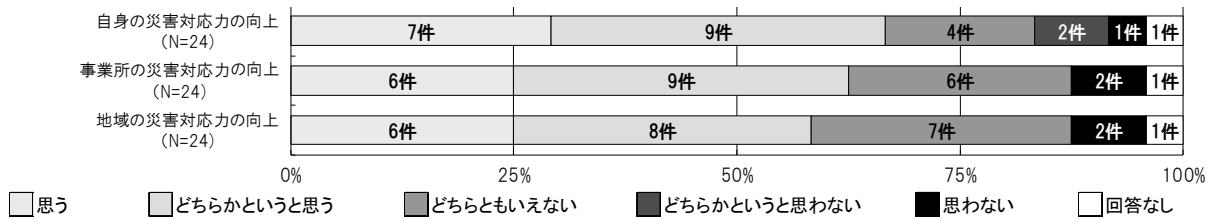


図 41 災害医療研修会アンケート調査結果概要(3) (災害対応力の向上に役立つ)

表 15 災害医療研修会アンケート調査結果概要(4) (研修会の感想)

良かった点	<ul style="list-style-type: none"> 3グループに分かれて個別に対応できたのは良かった。 誰にでも開かれた研修会であったこと。 実際の災害現場での医療者の動きが分かったこと。 実際に訓練ができ、必要な技術を見学できた。 実技があったこと。行政の役割にも触れていただき良かった。各ステーションの講師の方が熱心で良かった。 二次トリアージの実際を見学できたこと。より具体的な診療を見れた。 救護所の立ち上げについて理解できた。 高度な内容と講師、指導者の方々の熱意が伝わった。 医療関係者と思われるが、若い世代の参加者が多く、今後の災害医療面に希望が持てた。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 傷病者役のため、話が十分に聞けなかったのは残念。 医療救護所の運営については、もう少し時間がないと、より現実的な所の発想ができない感じがしました。 医療の用語が基礎知識としてないと理解ができない難しい表現があったこと。研修の対象が一般人でない？ 段取りがあまり良くなかった。傷病者として学べる情報や技術は無かった。医師など中心の講座であれば、一般者の参加は無しでも良いのでは。傷病者は講座関係者でも OK。 会場が広い方が良かった。 自社の登録が傷病になっており、残念でした。 傷病者役にも3つの班の資料が欲しかった。 3つのセクションの会話が混じってしまう。会場が狭すぎた。 実施時間が午後7時半からでは、一般的な感覚で遅いと思う。地域の人たちや事業者の参加しやすい時間設定をお願いしたい。

3.4.3 建物被害対応の実践トレーニング

超高層テナントビルを想定した建物被害確認調査と即時使用性判定の演習を行った。以下に実施概要および実施状況（図 42）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 16、表 17、図 43～図 46 に示す。

- ・ 題目：建物被害対応の実践トレーニング
- ・ 目的：
 - ・ 超高層テナントビルを想定した地震災害時の初動対応における建物調査の一連の流れを演習形式で体験する
 - ・ 建築専門家でなくても行える建物調査の仕方を理解する
- ・ 日時：2015年10月8日（水）14:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・ 講師：

諏訪 仁 氏	（株）大林組 技術研究所 構造技術研究部 主任研究員
武居 由紀子 氏	（株）武設計 代表（（一社）東京建築士会まちづくり委員会）
田中 聡 氏	常葉大学社会環境学部教授
鱒沢 曜 氏	鱒沢工学研究所 代表
水越 熏 氏	ミズコシ・アンド・アソシエイツ 代表
宮村 正光 氏	工学院大学 建築学部 教授
- ・ 参加人数：34名
- ・ プログラム
 - 1) 演習の説明
 - 2) 演習
 - ①テナント事業所地区隊として
テナント内の被害確認と記録、防災センターへ伝達
 - ②防災センター本部隊として
被害の集約、被害程度の調査、即時使用性判定
 - ③iPadによる建物被害調査（テナント事業所地区隊として）
iPadを使用したテナント内の被害記録
 - 3) 演習の振り返り

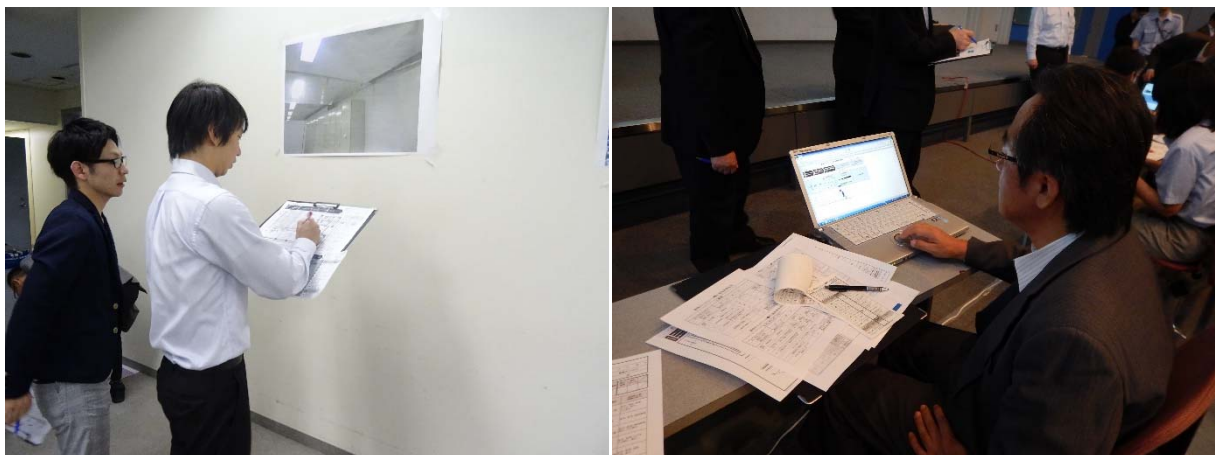


図 42 建物被害対応の実践トレーニングの実施状況

表 16 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
34名	29名	85%

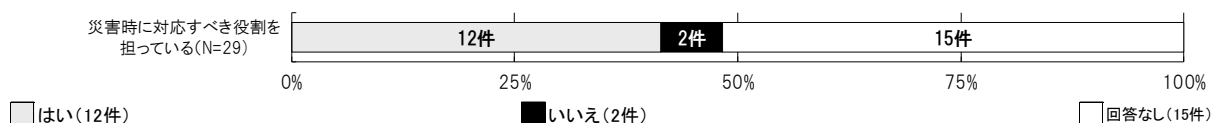


図 43 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査結果概要(1) (回答者の属性)

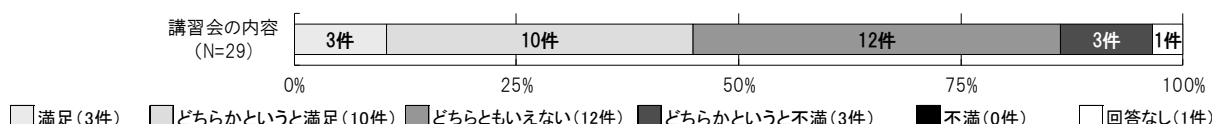


図 44 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査結果概要(2) (講習会の感想)

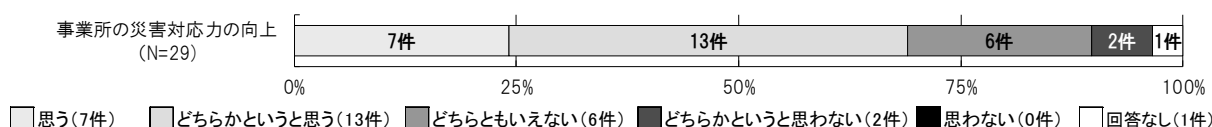


図 45 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査結果概要(3) (災害対応力の向上に役立つ)

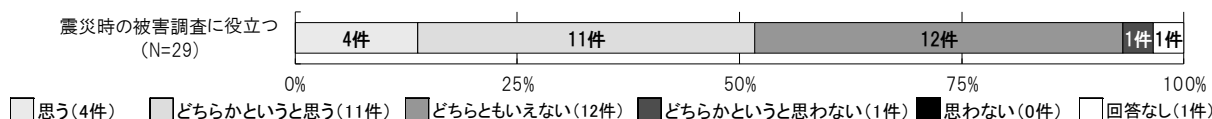


図 46 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査結果概要(4) (被害調査に役立つ)

表 17 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査結果概要(5) (講習会の感想)

<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> 役立つ情報を入手することができた。 まずやってみる事の重要性が良く分かった。実際の苦勞が良く想像できた。 実務的、最先端情報を知ることができた。 多くのことを学べた。 参考に出る所があった。 実際に危険な場所への出入りを行った演習を体験できて良かったです。 iPad で調査ができたこと。 この訓練 (演習) を継続しておくことが大事だと思います。 <p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> PC が足りず、残念でした。 サポーターを増員し、もっとスピーディーな運用で。質問コーナーは必要です。被害ランクの判断基準をもっと知りたかった。 地区隊が行う調査について、判断する人の知識レベルでの裁量が大きすぎるので、判断基準を明確にすべきかと思います。 使用する器具等を事前に参加者に伝えておくべき。通信料金は個人負担。 進行管理をしてほしい。 写真だけでは被害内容は不明瞭。 我々はあくまで地区隊なのでビル管は本部隊、テナントは地区隊で研修を分けるべきと考えます。 本部のパソコンの作業があまりできず、残念でした 時間配分が悪かった。
--

3.4.4 応急救護講習会

大規模災害時の応急救護に必要な知識と技能の習得および実践的なトレーニングを目的とする応急救護講習を行った。以下に実施概要および実施状況（図 47）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 18、表 19、図 48～図 50 に示す。

- ・ 題目：応急救護講習会
- ・ 目的：地震災害時の応急救護に必要な知識と技能の習得および実践的なトレーニング
- ・ 日時：2015 年 10 月 15 日（木）11:00～17:00
- ・ 会場：日本赤十字社東京都支部 2 階 大会議室
- ・ 講師：日本赤十字社東京都支部 事業部長／新宿駅周辺防災対策協議会 座長 宮崎 明浩 氏
東京消防庁新宿消防署 救急技術担当係長 安田 不二夫 氏
- ・ 参加人数：28 名
- ・ プログラム
 - 1) 座学講習
 - 2) 実技講習
 - 3) 総合演習
 - 4) 演習の振り返り・復習



図 47 応急救護講習会の実施状況

表 18 応急救護講習会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
28名	25名	89.3%



図 48 応急救護講習会アンケート調査結果概要(1) (回答者の属性)

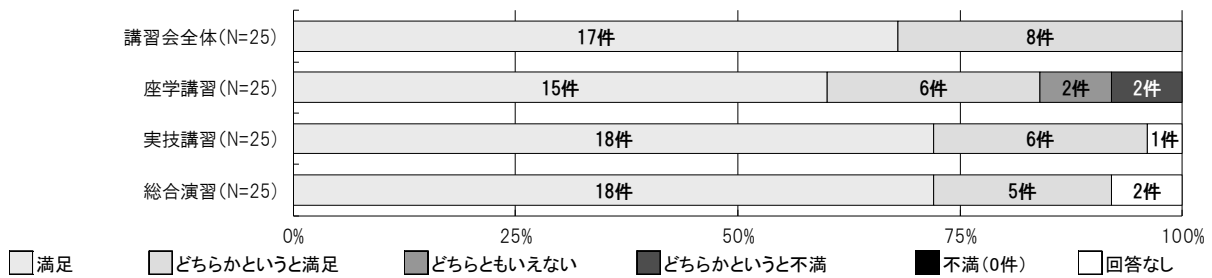


図 49 応急救護講習会アンケート調査結果概要(2) (講習会の感想)

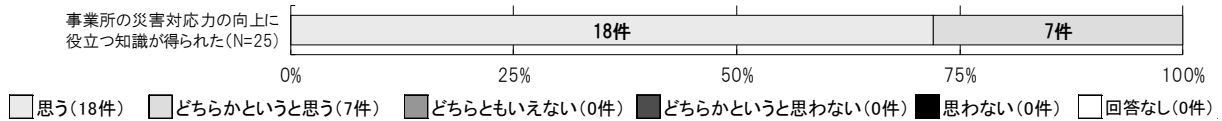


図 50 応急救護講習会アンケート調査結果概要(3) (災害対応力の向上に役立つ)

表 19 応急救護講習会アンケート調査結果概要(4) (講習会の感想)

<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実習が多かった。自分で考えて動く必要があった • 実技・総合演習はとても良かったです。一般的な心臓マッサージ、人口呼吸や AED よりもためになる内容で助かりました • 実際に役立つ内容である (真剣な取組みが見られた)、若い世代の参加があった • 総合演習で初めて傷病者観察記録シートを使って訓練をしたが、意外とスムーズに傷病者を救護できたことが良かった • 知識・実技と幅広く学べたこと。総合演習で実際に訓練できたことも良かったです。 • 長時間でしたが、休憩を細々取っていただけて、各講習集中できました • 緊急時の対応が具体的にイメージで来て大変良かった • 防災対策を身近に感じた • 実技が多く、体験できたのが良かった。赤十字社のやり方と東京消防庁のやり方の違いが良くわかった。無料なのに受講証がもらえた • 普段使いがなれない三角巾を実際使っていい経験になった。色々なパターンを覚えて役立てたい <p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> • もう 1 時間早く開始できないでしょうか • 救護の重要性を十分に承知しているうえでの参加なので、座学での雑談を多く感じました。座学の時間をもう少し減らしてもいいのかもしれませんが • 参加者の会社・事業所での講習会参加結果の周知活動を要請し、参加者の拡充を図っていくことも必要か? (参加者写真の配布による社内報などへの登載等) • セミナーのペースが早い • 講習会の案内に、タオル 1 枚の持参と書かれていたのに使用しなかった • 傷病者観察記録シートですが、活用しやすく災害時に連絡が取りやすくなると思います。しかし、災害本番でこの紙の大きさが荷物になってしまうのではないかと思います

3.4.5 自衛消防活動講習会

大規模災害時の自衛消防組織の活動に必要な知識の習得および実践的なトレーニングを目的とする講習会を行った。以下に実施概要および実施状況（図 51）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 20、表 21、図 52～図 55 に示す。

- ・ 題目：自衛消防組織の震災対応活動講習会
- ・ 目的：地震災害時における自衛消防活動の一連の流れ、本部隊・地区隊の役割および超高層テナントビルを例とする具体的な活動要領を学ぶ
- ・ 日時：2015年10月29日（木）14:00～16:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・ 講師：東京消防庁新宿消防署 自衛消防担当係長 磯田 正光 氏
株式会社セノン 経営企画グループ統轄／取締役執行役員 上倉 秀之 氏
株式会社セノン 経営企画グループ 部長代理 寺尾 圭太郎 氏
- ・ 参加人数：12名
- ・ プログラム
 - 1) 座学「震災時における自衛消防活動」
 - 2) 実技
 - ①初期消火訓練・避難誘導訓練
 - ②通報連絡訓練
 - ③グループ訓練



図 51 自衛消防活動講習会の実施状況

表 20 自衛消防活動講習会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
12名	10名	83.3%

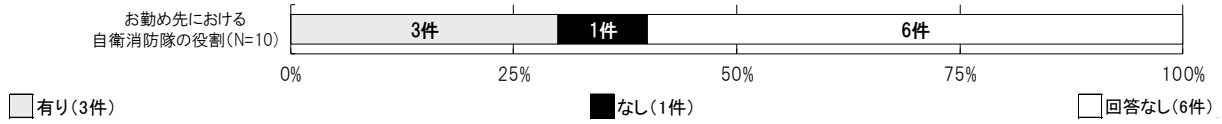


図 52 自衛消防活動講習会アンケート調査結果概要(1) (勤務先における自衛消防隊の役割)

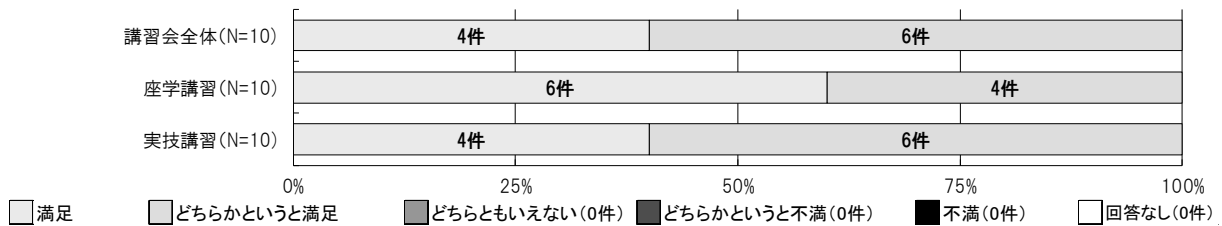


図 53 自衛消防活動講習会アンケート調査結果概要(2) (講習会の感想)

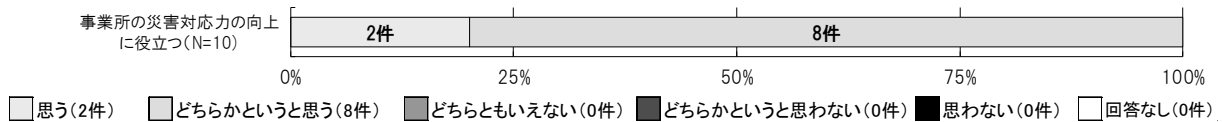


図 54 自衛消防活動講習会アンケート調査結果概要(3) (事業所の災害対応力の向上に役立つ)

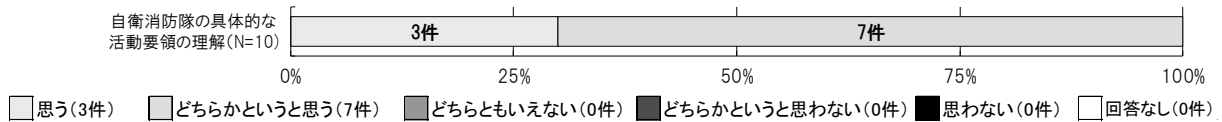


図 55 自衛消防活動講習会アンケート調査結果概要(4) (自衛消防隊の具体的な活動要領の理解)

表 21 自衛消防活動講習会アンケート調査結果概要(5) (講習会の感想)

<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実技を取り入れてくれたところがよかった。 • 臨場感 • 実技は良いと思う。 <p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 時間の配分
--

3.5 新宿防災ウィークの概要

総合防災訓練実施日を含む1週間を新宿防災ウィークとし、防災関連のシンポジウムを行った。以下に実施概要および実施状況（図56）を示す。

- ・ 題目：建物・エリアモニタリングと災害時対応力向上シンポジウム
- ・ 日時：2015年11月2日（月）13:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス
- ・ 主催：高層ビル耐震診断に基づく帰宅困難者行動支援システムの社会実装プロジェクト
巨大都市・大規模ターミナル駅周辺地域における複合災害への対応支援アプリケーションの開発プロジェクト
- ・ 協賛：構造ヘルスマモニタリングコンソーシアム
災害時のエリアモニタリングと対応力向上の技術開発コンソーシアム
- ・ 司会：三田彰（慶応義塾大学）、久田嘉章（工学院大学）
- ・ プログラム
 - 1) 関連プロジェクトの紹介
 - 高層ビル耐震診断に基づく帰宅困難者行動支援システムの社会実装 三田彰（前掲）
 - 巨大都市・大規模ターミナル駅周辺地域における複合災害への対応支援アプリケーションの開発 久田嘉章（前掲）
 - 2) 構造ヘルスマモニタリングシステムの仕組みと課題
 - MEMS センサに基づく SHM システム 松添雄二（富士電機株式会社）
 - 建物被災度判定支援システムの導入例 酒井美雄（白山工業株式会社）
 - クラウドに基づくデータ管理 吉元怜毅、大谷津裕（株式会社三菱総研）
 - 3) 震災・水害等の複合災害時における対応力向上のための取り組み事例
 - 新宿駅周辺地域における震災時対応力向上への取り組み 村上正浩（工学院大学）
 - 北千住駅周辺地域における水害時対応力向上への取り組み 小林 亘（東京電機大学）
 - 損害保険会社本社ビルにおける震災対策と被災度判定システムの活用 林田 健（損保ジャパン日本興亜ビルマネジメント株式会社）
 - 4) 全体討論



図 56 新宿防災ウィークに行われたシンポジウムの実施状況

3.6 総合防災訓練の概要

3.6.1 訓練の目的

首都直下地震発生時の人口・商業業務機能が集中する新宿駅周辺地域における混乱防止と被害軽減に向けて、地域や防災関係機関の連携強化および自助・共助を基本とする地域防災力の向上を図るため、実践的な訓練を新宿駅東口地域および西口地域において実施した。

3.6.2 基本方針

「新宿モデル」（情報収集伝達、避難誘導支援、医療連携、建物安全確認のしくみづくり）の実現に向けて、新宿駅周辺防災対策協議会を中心に各事業者や施設等における災害対応、地域連携による情報収集伝達や医療救護などの「自助」および「共助」を基本とする訓練とする。

3.6.3 訓練実施概要

本訓練では、首都直下地震による発災直後の状況および発災後一定程度時間が経過した状況を想定し、東西それぞれの地域特性に応じた場面設定に基づき訓練を実施した。表 22、図 57 に新宿駅東口地域地震防災訓練の実施概要および訓練実施状況、表 23、図 58 には新宿駅西口地域地震防災訓練の実施概要および訓練実施状況を示す。

(1) 新宿駅東口地域

- ・ 訓練名称：平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会訓練 新宿駅東口地域地震防災訓練
- ・ 日 時：平成 27 年 11 月 5 日（木） 13：00～16：00
- ・ 場 所：新宿区役所第一分庁舎 1 階（新宿区歌舞伎町 1-5-1）
東京都健康プラザ ハイジア（新宿区歌舞伎町 2-44-1）
- ・ 内 容：建物簡易判定訓練（事前訓練）、東口現地本部設置・運営訓練、負傷者搬送訓練、
負傷者対応訓練
- ・ 参加者数：約 100 名
- ・ 参加団体：22 団体

(2) 新宿駅西口地域

- ・ 訓練名称：平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会訓練 新宿駅西口地域地震防災訓練
- ・ 日 時：平成 27 年 11 月 5 日（木） 13：30～17：00
- ・ 場 所：工学院大学 新宿キャンパス（新宿区西新宿 1-24-2）、他
- ・ 内 容：自衛消防訓練（震災対応訓練）、医療救護訓練、西口現地本部訓練
- ・ 参加者数：約 220 名
- ・ 参加団体：66 団体

表 22 平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会訓練の実施概要
(新宿駅東口地域地震防災訓練)

10/29 (木)	事前訓練	日時：10月29日(木) 13:15～16:00 会場：新宿区役所本庁舎 5階大会議室 内容：建物応急使用可否判定や、様々な状況を想定した図上訓練を事前に実施(訓練事前説明会とあわせて実施)
11/5 (木)	①建物簡易判定訓練 ②現地本部の設置及び運営訓練	日時：11月5日(木) 13:00～16:00 会場：新宿区役所第一分庁舎 1階 内容： ・建物応急使用可否判定 ・東口現地本部の立上げ、情報共有・伝達訓練 ・西口現地本部、新宿区災害対策本部との通信訓練
	③負傷者搬送訓練	日時：11月5日(木) 13:00～16:00 会場：新宿区役所第一分庁舎から東京都健康プラザ ハイジア1階 内容： ・負傷者の搬送の順位判定 ・東口現地本部からハイジアまでの負傷者搬送訓練(ダミー人形での搬送)
	④負傷者対応訓練	日時：11月5日(木) 13:00～16:00 会場：東京都健康プラザ ハイジア1階 内容： ・応急救護所(仮)及びトリアージポストの設置 ・新宿区医師会と大久保病院の医療従事者によるトリアージ、中軽傷者の応急手当訓練 ・重傷者の大久保病院への搬送及び医療処置訓練
12/4 (金)	訓練検証会	日時：12月4日(金) 13:30～16:00 会場：新宿区役所第一分庁舎 6階研修室

表 23 平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会訓練の実施概要
(新宿駅西口地域地震防災訓練)

10/30 (金)	訓練参加者説明会	日時：10月30日(金) 14:30～17:00 会場：工学院大学新宿キャンパス 28階第1・第2・第4会議室 内容：訓練参加者を対象に、訓練の詳細および参加者の役割分担等を確認し、一部搬送等の練習を実施
11/5 (木)	①自衛消防訓練 (震災対応訓練)	日時：11月5日(木) 13:30～16:30 会場：工学院大学新宿キャンパス 1階・3階・地下1階 内容：地震発生直後および発災数時間後の場면을想定した訓練 ・自衛消防隊(本部隊・地区隊)編成、災害対策本部立ち上げ ・火災対応(火災の確認、初期消火)、避難誘導 ・閉じ込め者対応(閉じ込め者の確認、救出) ・傷病者対応(傷病者の確認、応急手当、チェックシートを用いた観察記録、情報伝達、応急救護所立上げ、搬送) ・建物被害対応(初動安全確認、被害の確認、チェックシートおよび携帯情報端末を用いた記録、情報伝達、即時使用性判定)
	②医療救護訓練	日時：11月5日(木) 13:30～16:30 会場：工学院大学新宿キャンパス 1階、他 内容：発災数時間後以降の場면을想定した訓練 ・仮想緊急医療救護所立ち上げ ・医療従事者によるトリアージ、診察、搬送順位決定 ・傷病者の応急手当、観察、搬送、事務調整 ・防災行政無線による情報伝達、クラウドツールによる情報共有 ・新宿区医療救護本部との連携
	③西口現地本部訓練	日時：11月5日(木) 13:30～16:30 会場：工学院大学新宿キャンパス 2階、他 内容：発災数時間後以降の場면을想定した訓練 ・西口現地本部立ち上げ ・東口現地本部、新宿区災害対策本部との通信、情報共有 ・災害情報収集、整理 ・地域、関係機関への情報提供 ・その他、地域の支援
	講評会	日時：11月5日(木) 16:30～17:00 会場：工学院大学新宿キャンパス 3階アーバンテックホール 内容：訓練の講評およびアンケート調査
12/24 (木)	訓練検証会	日時：12月24日(木) 14:00～16:30 会場：新宿区役所本庁舎 5階大会議室 内容：ワークショップ方式で、訓練の改善点や成果についてグループ討議



図 57 新宿駅東口地域地震防災訓練の実施状況 (左上：建物簡易判定訓練 (事前訓練)、右上：東口現地本部設置・運営訓練、左下：負傷者搬送訓練、右下：負傷者対応訓練)



図 58 新宿駅西口地域地震防災訓練の実施状況 (左上：訓練会場 (工学院大学1階)、右上：自衛消防訓練 (震災対応訓練)、左下：医療救護訓練、右下：西口現地本部訓練)

第4章 おわりに

本報告書では、平成 27 年度に新宿駅周辺防災対策協議会が新宿駅周辺エリアにおける大規模地震災害時の災害対応能力の向上を目的として実施した総会、セミナー、講習会および総合防災訓練等からなる一連の活動について報告した。

参考文献

- [1] 新宿駅周辺地域都市再生緊急整備協議会：新宿駅周辺地域都市再生安全確保計画
http://www.city.shinjuku.lg.jp/anzen/kikikanri01_000110.html
- [2] 新宿駅周辺防災対策協議会：平成 24 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 セミナー及び講習会 年間活動報告，Mar. 2013.
- [3] 新宿駅周辺防災対策協議会：平成 24 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 平成 24 年度 新宿駅西口地域地震防災訓練 報告書，Mar. 2013.
- [4] 久田嘉章，村上正浩，宮村正光，鱒沢曜，諏訪仁，新藤淳，“超高層ビル街における地震後の傷病者への対応，建物の被害確認と継続使用性判定に関する研究 その 1：新宿駅西口地域における取組みの概要”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1193-1194，Aug. 2013.
- [5] 鱒沢曜，久田嘉章，“超高層ビル街における地震後の傷病者への対応，建物の被害確認と継続使用性判定に関する研究 その 2：建物内および地域の医療救護所における傷病者対応”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1195-1196，Aug. 2013.
- [6] 飯塚章仁，鱒沢曜，久田嘉章，宮村正光，諏訪仁，“超高層ビル街における地震後の傷病者への対応，建物の被害確認と継続使用性判定に関する研究 その 3：テナント事業者による建物被害確認と情報集約”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1197-1198，Aug. 2013.
- [7] 宮村正光，諏訪仁，久田嘉章，村上正浩，鱒沢曜，飯塚章仁，“超高層ビル街における地震後の傷病者への対応，建物の被害確認と継続使用性判定に関する研究 その 4：建物管理者による即時使用性判定”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1199-1200，Aug. 2013.
- [8] 村上正浩，久田嘉章，新藤淳，鱒沢曜，“地域防災拠点としての大学を目指して”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1163-1164，Aug. 2013.
- [9] 鱒沢曜，久田嘉章，田中聡，宮村正光，諏訪仁，飯塚章仁，“超高層ビル街における災害時の建物被害確認と情報集約に関する研究”，日本地震工学会大会 2013 年梗概集，pp. 13-14，Nov. 2013.
- [10] 鱒沢曜，諏訪仁，“新宿駅周辺におけるエリア防災の取り組み その 1：建物即時使用性の判定と多数傷病者への対応”，日本建築学会 巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会 公開研究会資料，Dec. 2013.
- [11] 村上正浩，“新宿駅周辺におけるエリア防災の取り組み その 2：都市再生安全確保計画と今後の対応”，日本建築学会 巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会 公開研究会資料，Dec. 2013.
- [12] Yoe Masuzawa, Yoshiaki Hisada, Masahiro Murakami, Jun Shindo, Masamitsu Miyamura, Hitoshi Suwa, Satoshi Tanaka, Kaoru Mizukoshi and Yosuke Nakajima: Practice on an Education and Training Program to Development of Response Literacy to Earthquake Disaster in a Central Business District in Japan, *Journal of Disaster Research*, Vol.9 No.2, Mar. 2014, pp. 216-236.
- [13] 新宿駅周辺防災対策協議会：平成 25 年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動 報告書，Mar. 2014.
- [14] 新宿駅周辺防災対策協議会：平成 25 年度 新宿駅西口地域地震防災訓練 報告書，Mar. 2014.

- [15]本橋直之，鱒沢曜，田中聡，久田嘉章，宮村正光，諏訪仁，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 その1：テナント入居者による建物被害確認と情報集約”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 125-126, Sep. 2014.
- [16]田中聡，鱒沢曜，水越熏，中嶋洋介，久田嘉章，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 その2：携帯情報端末を活用した建物被害調査システム”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 127-128, Sep. 2014.
- [17]湯澤伸伍，宮村正光，諏訪仁，久田嘉章，鱒沢曜，田中聡，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 その3：建物管理者による即時使用性判定法の提案と訓練での検証”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 129-130, Sep. 2014.
- [18]村上正浩，新藤淳，久田嘉章，“新宿駅周辺地域を対象とした都心業務地域のエリア防災に関する研究 その1：都市再生安全確保計画と今後の課題”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1405-1414, Dec. 2014.
- [19]新藤淳，村上正浩，久田嘉章，“新宿駅周辺地域を対象とした都心業務地域のエリア防災に関する研究 その2：地域連携による危機対応とその標準化”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1415-1423, Dec. 2014.
- [20]鱒沢曜，久田嘉章，村上正浩，新藤淳，“中心市街地の地震災害への対応力を高める教育訓練と傷病者対応の取組み”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1424-1433, Dec. 2014.
- [21]本橋直之，鱒沢曜，田中聡，久田嘉章，水越熏，中嶋洋介，宮村正光，諏訪仁，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と情報集約手法の検討”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1486-1495, Dec. 2014.
- [22]諏訪仁，宮村正光，久田嘉章，村上正浩，鱒沢曜，児島帝二，武居由紀子，湯澤伸伍，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 -建物管理者による即時使用性判定法の提案と訓練での検証-”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1481-1485, Dec. 2014.
- [23]湯澤伸伍，宮村正光，諏訪仁，久田嘉章，鱒沢曜，児島帝二，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 -建物管理者による即時使用性判定法の提案と訓練での検証-”，社会貢献学会第5回大会予稿集，Dec. 2014.
- [24]本橋直之，鱒沢曜，久田嘉章，田中聡，宮村正光，諏訪仁，“超高層ビルにおける地震後の建物被害確認と情報集約について”，社会貢献学会第5回大会予稿集，Dec. 2014.
- [25]新宿駅周辺防災対策協議会：平成26年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動 報告書，Mar. 2015.
- [26]新宿駅周辺防災対策協議会：平成26年度 新宿駅西口地域地震防災訓練 報告書，Mar. 2015.
- [27]鱒沢曜，久田嘉章，村上正浩，新藤淳，“超高層テナントビルを想定した震災対応訓練と建物被害調査に関する研究 その1：自衛消防組織による震災対応訓練モデル”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1011-1012, Sep. 2015.
- [28]本橋直之，鱒沢曜，田中聡，久田嘉章，宮村正光，諏訪仁，“超高層テナントビルを想定した震災対応訓練と建物被害調査に関する研究 その2：建物被害確認・情報集約手法の改善と訓練での検証”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1013-1014, Sep. 2015.

- [29]田中聡, 鱒沢曜, 水越熏, 中嶋洋介, 久田嘉章, “超高層テナントビルを想定した震災対応訓練と建物被害調査に関する研究 その3 : 携帯情報端末を活用した建物被害調査システムの改善と訓練での検証”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1015-1016, Sep. 2015.
- [30]湯澤伸伍, 宮村正光, 諏訪仁, 鱒沢曜, 久田嘉章, 児島帝二, “超高層テナントビルを想定した震災対応訓練と建物被害調査に関する研究 その4 : 即時使用性判定手法の改善と訓練での検証”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1017-1018, Sep. 2015.